第７章　環境マネジメントシステム

第 1 節　四日市市役所における環境マネジメントシステムについて ・・・・・・・・・・・・・・122
1. 認証取得日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
2. 審査登録機関・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
3. 取得範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
4. 取得目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
5. 取得までの経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
6. 本市環境マネジメントシステムの特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・123
7. 平成 16 年度の実績 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・124
8. 旧楠町における環境マネジメントシステムの取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・・126
9. ISO14001 認証取得範囲外における取組＝YSO による活動 ・・・・・・・・・・・・・・・127
第 2 節　市民との協働による環境マネジメントシステムへの取組 ・・・・・・・・・・・・・・129

第１節　四日市市役所における環境マネジメントシステムについて

１．認証取得日　　平成１２年2月１８日

２．審査登録機関　　（財）三重県環境保全事業団　国際規格審査登録センター

三重県安芸郡河芸町大字上野３２５８番地

３．取得範囲　　市役所本庁舎、北館、市営中央駐車場

４．取得目的

①地球環境問題をはじめとする今日の環境問題は、社会全体で取り組むべき課題であり、市役所も一事業所として環境に影響を与えていることを認識し、行政運営をできるだけ環境にやさしい、負荷をかけないシステムに見直す。

②快適環境都市宣言を行った都市として、環境管理に関する国際規格であるＩＳＯ１４００１を認証取得し、継続的改善を図ることにより、市役所自らが率先して環境問題に取り組む姿勢を明確にする。

③市の環境保全活動への積極的な取組姿勢をアピールすることにより、環境保全に対する全市的な活動を促進する。

④エコ商品を市が率先購入することにより、環境配慮型商品の市場形成の拡大を図る。

⑤環境保全への取組を通して、職員の意識改革や業務の改善が図られ、本市行財政改革が目指す簡素で効率的な行政運営の確立を図る。

５．取得までの経緯

平成１０年１０月　環境部環境保全課に専任職員３名配置
　　環境マネジメントシステム推進プロジェクトチーム設置
平成１１年　1月　市長のＩＳＯ１４００１認証取得宣言
　　環境マネジメントシステム推進本部設置(玉置助役本部長)
平成１１年　8月　環境方針制定・環境マネジメントシステム運用開始
平成１１年１１月　内部環境監査実施
　　事前審査受審
平成１２年　1月　登録審査受審
平成１２年　2月　ＩＳＯ１４００１認証取得

６．本市環境マネジメントシステムの特徴

１．環境方針

① 四日市市の行政に携わる者として、市民・事業者・行政が続けてきた四日市公害克服に向けた努力を深く認識するとともに、環境保全活動を率先垂範し実践する強い自覚が必要な旨を明記した。

② 地方公共団体としての自らの活動及びサービスを環境の視点でマネジメントすることにより、快適な環境都市四日市を実現するとともに、快適な環境を将来の市民に引き継いでいくことを明記した。

２．環境目的・目標に三本柱を設定

① 事務事業環境負荷低減項目（７種の環境目的、１４種の環境目標）

事務を遂行する上で発生する環境負荷を低減するもの。

具体例：○省資源・グリーン購入を推進する。

－平成１６年度のコピー用紙購入量を１４年度比５％削減する。

○本庁舎・北館・市営中央駐車場の省エネルギーを推進する。

－平成１６年度の電気使用量について、平成１５年度の実績を維持する。

－平成１６年度のガス使用量を平成１２年度～１５年度の４年間の実績の平均値より削減する。

○公用車の適正使用を推進し、環境に配慮した自動車を導入する。

－平成１６年度の公用車の燃料使用量を１０年度比１３％削減する。

○本庁舎・北館から排出されるごみの減量・リサイクルを推進する。

－平成１６年度の一般ごみ・埋立ごみの総量を１４年度比１０％削減する。

② 公共工事環境負荷低減項目（２種の環境目的、４種の環境目標）

公共工事を執行する際に発生する環境負荷を低減するもの。

具体例：○環境配慮型公共工事を推進する。

－環境配慮型施工方法を採用する。

－掘り返し防止を推進する。

○草木等の廃棄物を適正に処理する。

－剪定枝についてはチップ化し、リサイクルを推進する。

－除草後の草については適正処理方法を検討し、処理業者から処理結果の報告を求める

③ 環境保全・創造項目（５種の環境目的、７種の環境目標）

行政施策を展開することにより、快適な環境を有するまちづくりに資するもの。

具体例：○全市のごみ減量施策を推進する。

－平成１６年度の一般ごみ・埋立ごみの総量について、平成１５年度実績を維持する。

○生活排水処理施策を推進する。

－汚水衛生処理率を平成１６年度末までに７１．６％にする。

○太陽光発電システム設置を促進する。

○既存公共施設の有効活用を推進する。

○里山保全を推進する。

３．内部環境監査に市内事業所の参画

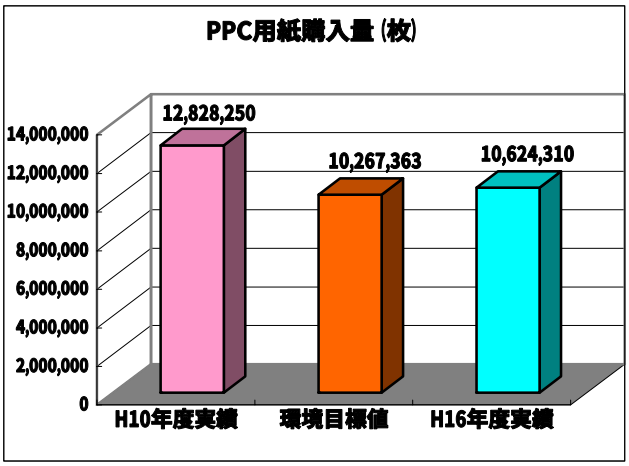
本来、内部環境監査は組織内の者が実施するものであるが、昨今、行政の説明責任が叫ばれる中、本市環境マネジメントシステムについても、透明性を高めるため、内部環境監査に、市内でＩＳＯ１４００１

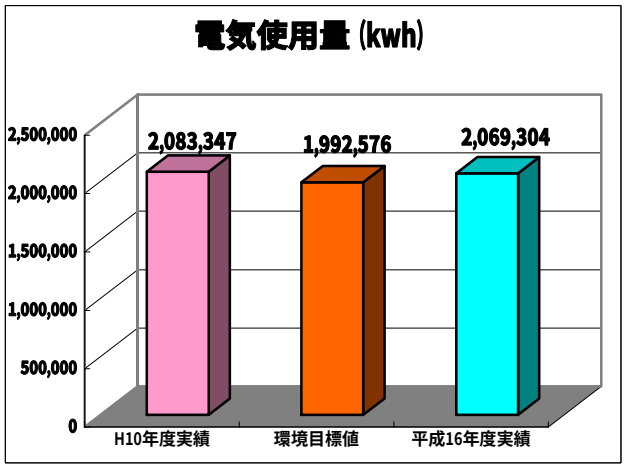
を認証取得している民間事業所の内部環境監査への参画を運用開始当初よりシステム化し、毎年、市職員との混合監査チームを編成して内部環境監査を実施している。これによって、民間の目を通した四日市市のシステムに対する意見や内部環境監査に関するノウハウが得られるなどシステム運用の実効性が向上しており、このシステムは外部審査機関からも高い評価を受けている。

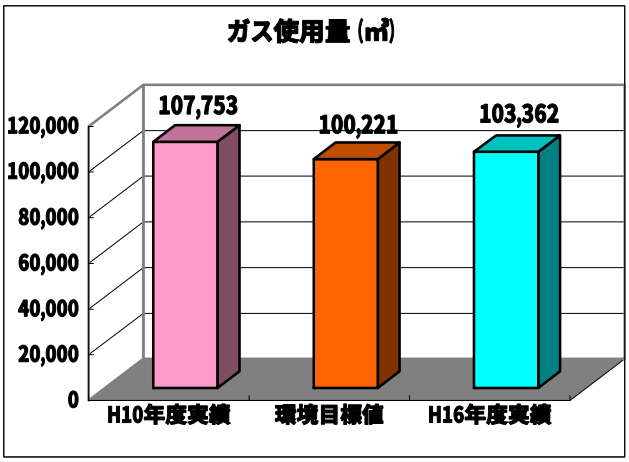
また、平成１６年度は本市の内部環境監査の被監査部門１４部門のうち、６部門に県内他自治体の職員に参画いただいた。

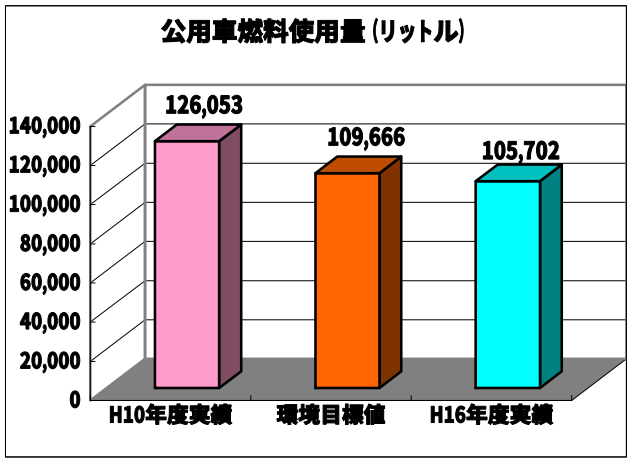
７．平成１６年度の実績

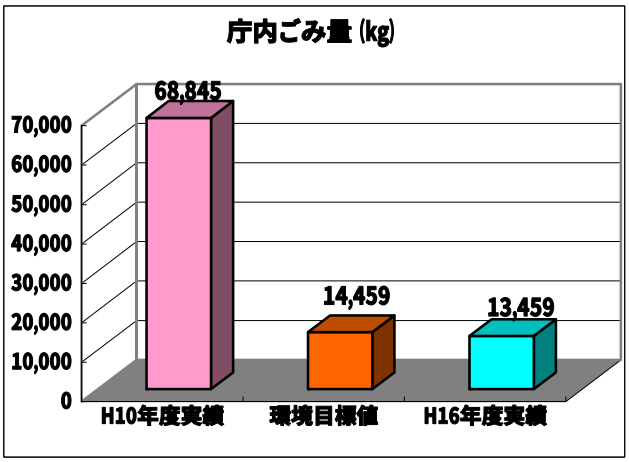
ＩＳＯ１４００１に基づく環境マネジメントシステムの平成１６年度分の実績は、おおむね当初の計画どおり進捗しており、公用車燃料使用量及び庁内ごみ量について環境目標を達成した。

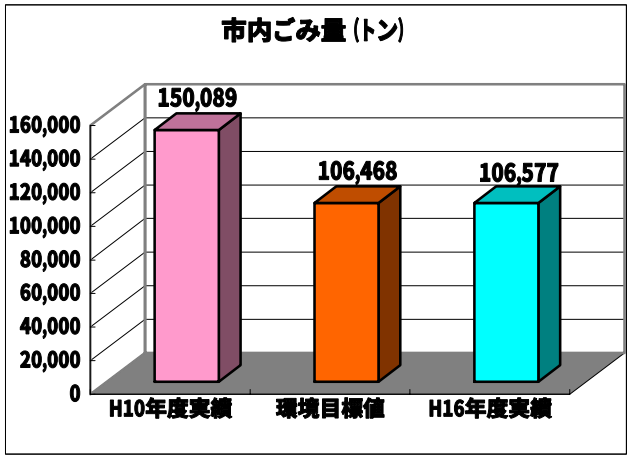

PPC用紙購入量 (枚)
14,000,000
12,000,000
10,000,000
8,000,000
6,000,000
4,000,000
2,000,000
0
12,828,250
10,267,363
10,624,310
H10年度実績
環境目標値
H16年度実績


電気使用量 (kwh)
2,500,000
2,000,000
1,500,000
1,000,000
500,000
0
2,083,347
1,992,576
2,069,304
H10年度実績
環境目標値
平成16年度実績


ガス使用量 (㎥)
120,000
100,000
80,000
60,000
40,000
20,000
0
107,753
100,221
103,362
H10年度実績
環境目標値
H16年度実績


公用車燃料使用量 (リットル)
140,000
120,000
100,000
80,000
60,000
40,000
20,000
0
126,053
109,666
105,702
H10年度実績
環境目標値
H16年度実績


庁内ごみ量 (kg)
70,000
60,000
50,000
40,000
30,000
20,000
10,000
0
68,845
14,459
13,459
H10年度実績
環境目標値
H16年度実績


市内ごみ量 (トン)
160,000
140,000
120,000
100,000
80,000
60,000
40,000
20,000
0
150,089
106,468
106,577
H10年度実績
環境目標値
H16年度実績

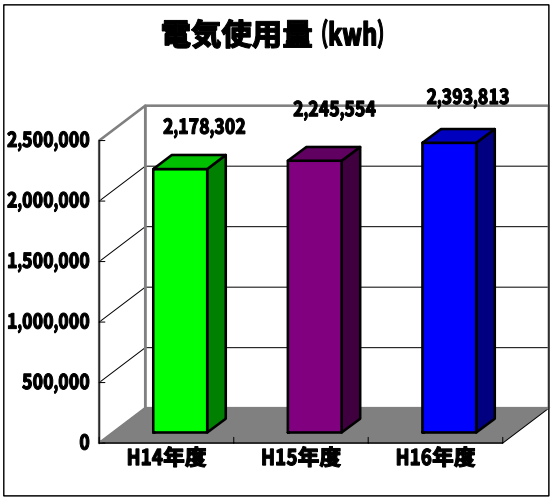
８．旧楠町におけるＩＳＯ１４００１による取組実績

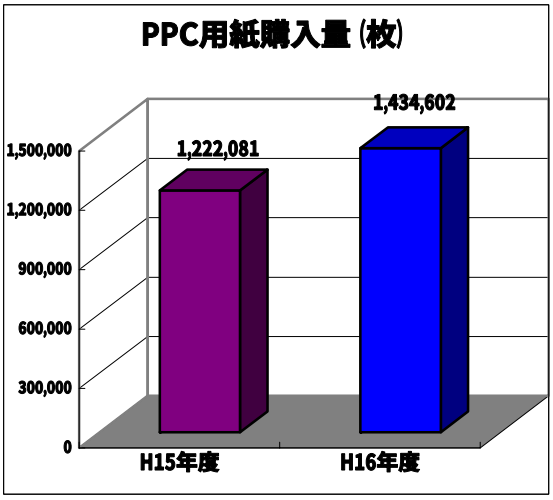
〇ISO14001 認証取得日

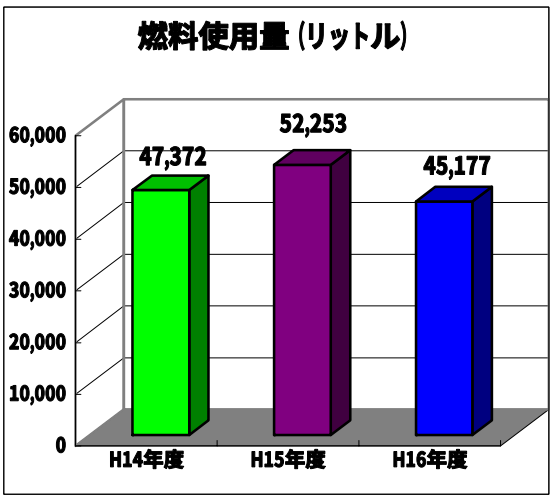
楠町庁舎、中央公民館、中央緑地公園、衛生センター
認証取得日・・・平成 14 年 12 月 16 日

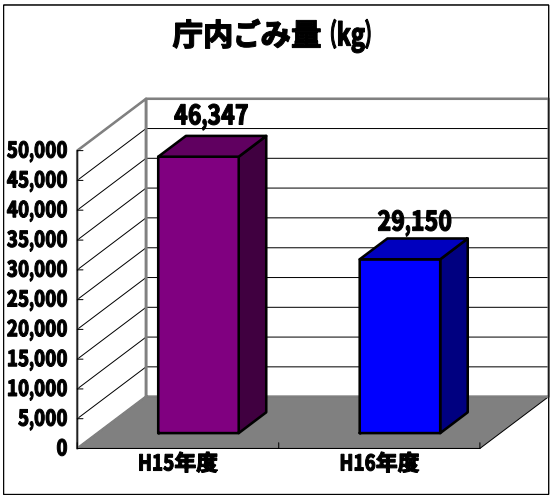
幼稚園、保育園、小中学校、学校給食調理場、町民福祉会館、保健福祉センター
認証取得日・・・平成 15 年 10 月 28 日

旧楠町における取組み実績（グラフ）







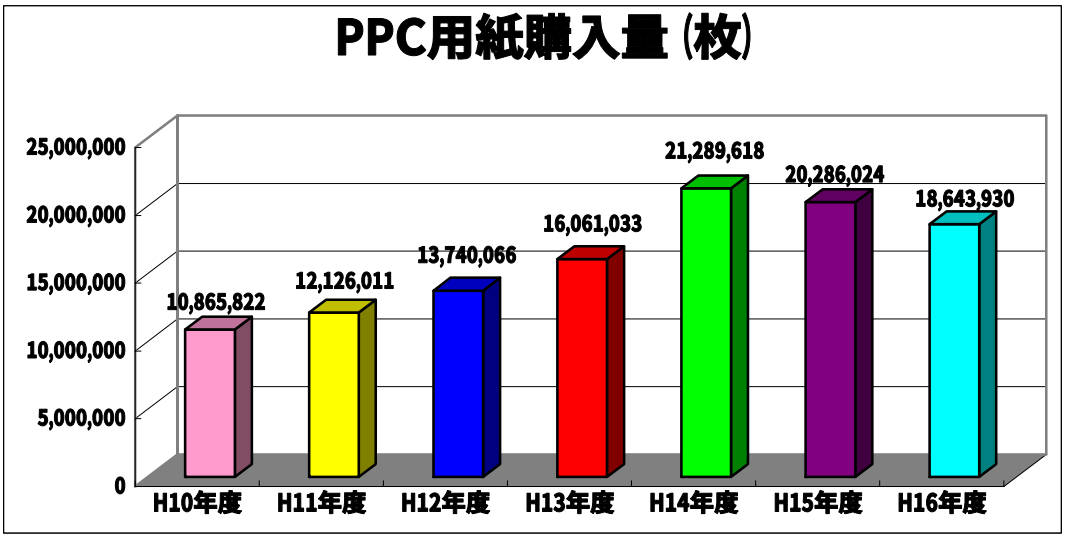


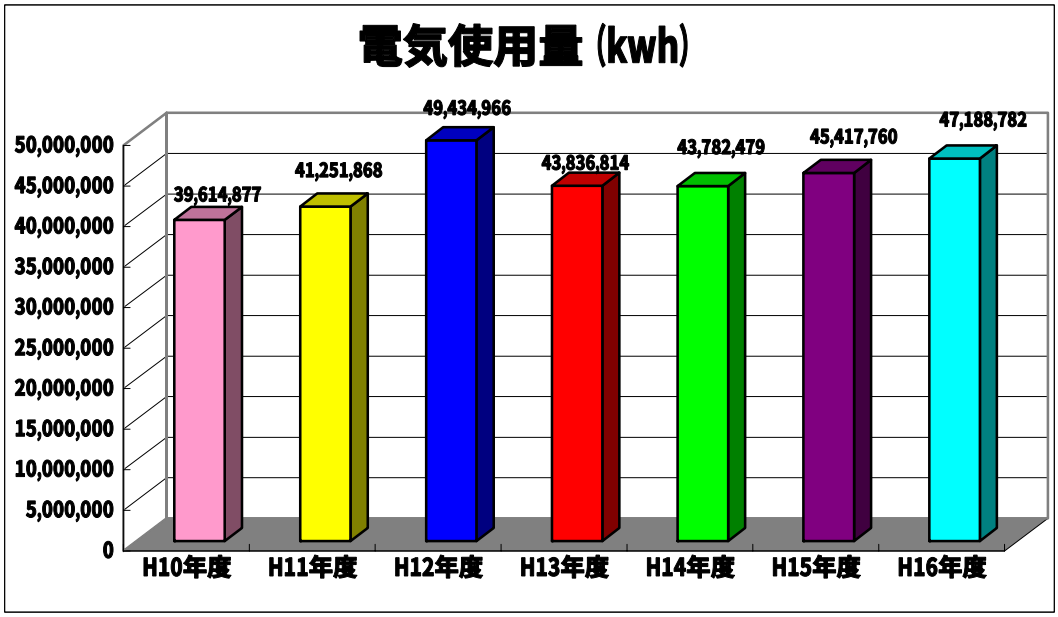
９．ＩＳＯ１４００１認証取得範囲外における取組＝ＹＳＯによる活動

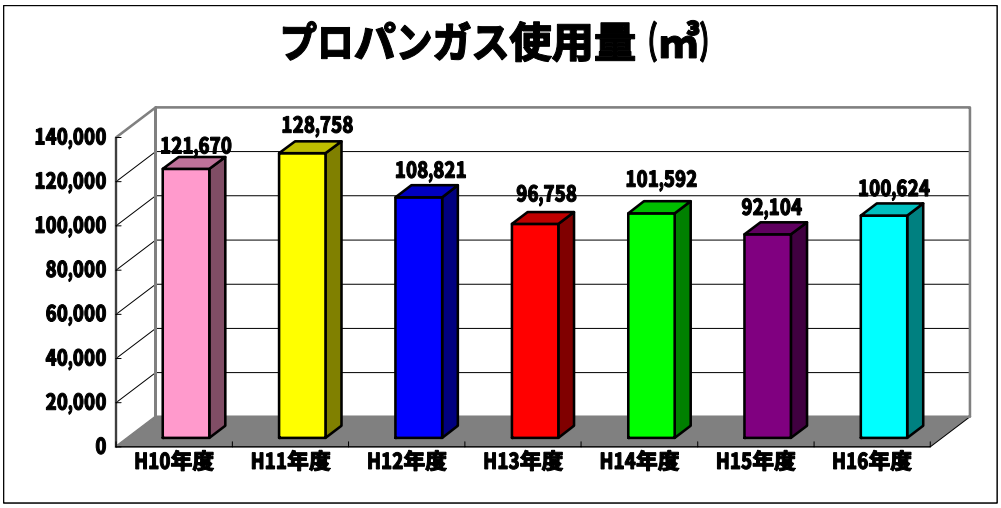
ＩＳＯ１４００１の精神及び環境負荷低減を市の全公共施設に広めるため、四日市市役所版のＥＭＳを構築した。ＩＳＯが「International Standard」であるのに対して、四日市版ＥＭＳは「Yokkaichi Standard」であることからＹＳＯと名付け、平成１３年７月１日から運用を開始した。

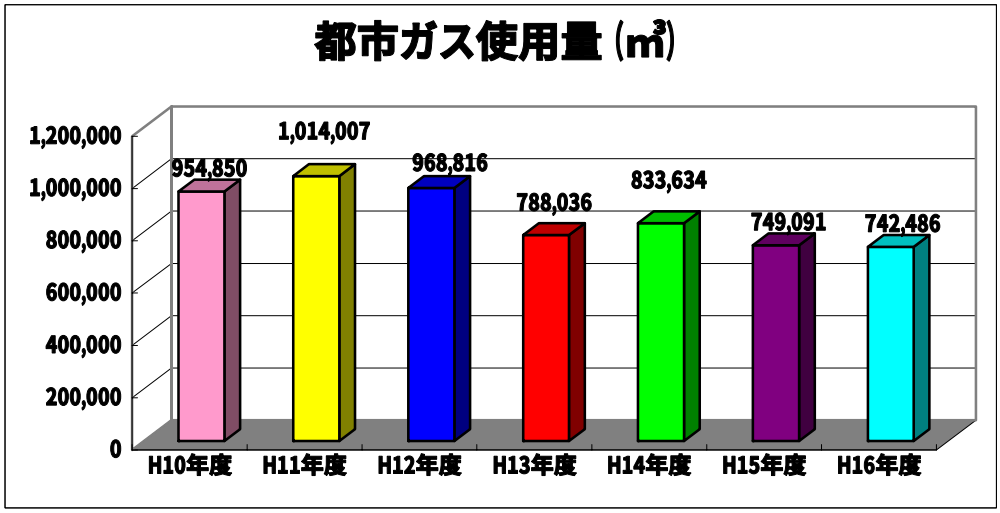
なお、ＩＳＯとＹＳＯを合わせた本市ＥＭＳは、地球温暖化対策推進法に規定されている地方公共団体の「地球温暖化防止実行計画」としても位置づけている。

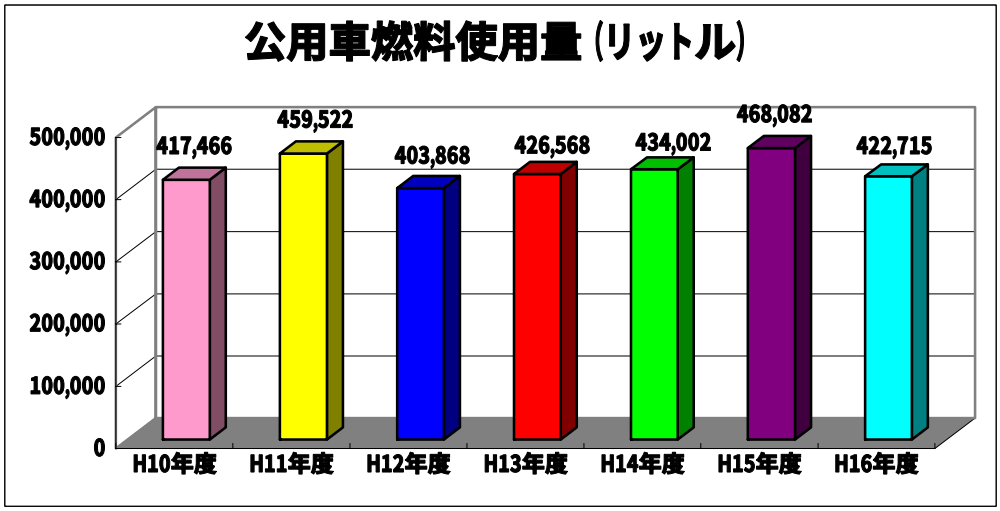
ＹＳＯ使用量等実績推移（平成１０年度～平成１６年度まで）






プロパンガス使用量（㎥）
140,000
120,000
100,000
80,000
60,000
40,000
20,000
0
121,670
128,758
108,821
96,758
101,592
92,104
100,624
H10年度
H11年度
H12年度
H13年度
H14年度
H15年度
H16年度


都市ガス使用量（㎥）
1,200,000
1,000,000
800,000
600,000
400,000
200,000
0
954,850
1,014,007
968,816
788,036
833,634
749,091
742,486
H10年度
H11年度
H12年度
H13年度
H14年度
H15年度
H16年度


公用車燃料使用量（リットル）
500,000
400,000
300,000
200,000
100,000
0
417,466
459,522
403,868
426,568
434,002
468,082
422,715
H10年度
H11年度
H12年度
H13年度
H14年度
H15年度
H16年度

第２節　市民との協働による環境マネジメントシステムへの取組

官民の協働(Collaboration)会議である四日市生活創造圏ビジョン推進協働会議（※）の中で、市民版環境ＩＳＯを策定した。ＩＳＯ１４００１規格の考え方を基本にした、家庭で環境に負担をかけない暮らし方を提案する仕組みで、ＩＳＯの考え方に賛同する仲間(Partner)という意味から、ＩＳＯと Partner のＰをとってＩＳＯＰ（イソップ）と名付けた。

参加者が自ら選んだメニューを３ヵ月実施し、その結果を事務局に報告する。ビジョン推進会議はその取り組み内容を審査し、適正と認められたものについて「イソップ家族認定書」を発行する。

ＩＳＯＰを普及させることにより、家庭から地域、地域から地球全体の環境影響を減らしていきたいと考えている。

（※）四日市生活創造圏ビジョン推進協働会議：ごみ問題をはじめとする環境問題の解決を目標に、住民、企業、行政の協働による地域づくりを目指し、２０００年に設置された団体。構成メンバーは、環境に関心の深い住民やサラリーマン、環境分野の行政職員など様々。

〔主な特徴〕

○ＩＳＯ１４００１の基本であるＰＤＣＡサイクルを取り入れている。
○官民協働組織が認定する認定制度を採用している。
○家族単位での参加を基本としているが、１人以上何人でも随時参加できる。
○過大な目標設定をせず、誰もがチャレンジしやすい行動内容としている。
○生活に密着した５つの分野からそれぞれ行動内容を自由に選択し、項目数も自由に選べる。
○３ヵ月間実施した行動結果は、自己評価して提出する自主性を重視した方式を採っている。
○インターネットでも応募できる。